SHURIJO CASTLE PARK NEWS LETTER UGUSHIKUDAYORI
首里城通信 Vol. 17

御城だより

平成の首里城復元にも携わった山本総棟梁 令和の復元で新たな挑戦！

棟梁インタビュー

次世代に受け継ぐ令和の首里城
興南アクト部の視点

沖縄の学生×首里城
写真でつむぐ復興への想い

ガイダンスホールの楽しみ方

平成の首里城復元にも携わった山本総棟梁

令和の復元で新たな挑戦！

令和8年秋の正殿完成を目指して日々復興の進む首里城は、令和5年には正殿本体の復元工事が始まります。

正殿復元の総棟梁として活躍する山本信幸氏に、平成の復元にも携わったその貴重な経験や令和の復元への想いを伺いました。

総棟梁 山本 信幸 氏

profile

山本 信幸 氏

・株式会社 社寺建 代表取締役会長 棟梁
・文化財建築物木材主任技術者
・日本伝統建築棟梁

昭和33年生まれ福井県出身。
手仕事が好きだったことから大工の道へ。ある棟梁との出会いから奈良薬師寺の再建工事に関わる。人も仕事も頂きが見えない宮大工の奥深さに惹かれ、そこに天職を見出す。これまで半世紀近く、伝統建築の世界に携わってきた。

＜略歴＞

昭和59年以前	薬師寺金堂復元工事を手掛ける[奈良県]
	朝倉遺跡武家屋敷復元工事を手掛ける[福井県]
	【国指定重要文化財】大塩八幡宮拝殿解体修理工事を手掛ける[福井県]
	【国指定重要文化財】春日神社本殿解体修理工事を手掛ける[福井県]
平成2年	【旧国宝】首里城正殿建築工事で副棟梁[沖縄県]
平成8年	【国指定重要文化財】浄興寺本堂保存修理工事で棟梁[新潟県]
平成12年	【国指定重要文化財】石谷家住宅改修工事で棟梁[鳥取県]
平成18年～	【国指定重要文化財】星名家住宅保存修理工事で現場管理[新潟県] 現場管理
平成19年～	【特別史跡】五稜郭跡内箱館奉行所庁舎復元工事で棟梁[北海道]
平成21年10月	株式会社 社寺建 設立
平成25年	歌舞伎座屋根瓦座等工事及び技術支援
平成29年	福井城山里口御門復元整備工事
令和元年	大嘗宮（悠紀殿・主基殿等）新築工事
令和2年	史跡鳥取城 中ノ御門表門等復元工事

平成復元時の山本氏

山本総棟梁がこれまで携わった伝統建築の経歴や内容を教えてください。

私はこれまで主に新築復元の建物を手がけてきて、北では函館の五稜郭、地元の福井では朝倉遺跡の武家屋敷や福井城、奈良では薬師寺の工事に携わりました。会社を設立してからは、鳥取城なども手がけ、5期目の歌舞伎座復元工事では原寸図の意匠を決めることに関わっていました。

私は設計者ではないので、どのような手法で作業すべきかの決定権はありませんが、資料を探したり図面を描き起こすお手伝いをしています。有識者の先生方からの指示を具体化するために、私が持っている知識や経験を活かし、実際の仕事に役立てています。

半世紀近くこの仕事に関わってきたので、たくさんの引き出しができていると思います。もちろん平成の首里城復元にも関わっていたので、これらの引き出しを活かして今回は令和の首里城復元に貢献していきたいと思っています。

「前と同じだと感じてもらえるような建物(正殿)を作りたいと思っています」

復元工事でやりがいを感じる瞬間について教えてください。

復元工事には、私たち大工だけでなく、様々な職人や有識者の先生方も関わっています。他にも複数の建設企業や国の関与もあることから、立場は違っても一つのチームとして、皆で同じ方向に進んで完成した時は感慨もひとしおです。自分の仕事に偏らず、チームとして取り組むことが大切で、その方がより大きな達成感を感じられると思います。

30年前の平成の復元に関わっていた頃のことを教えてください。

私は副棟梁として参加し、兄弟子である棟梁をサポートしていました。主に図面制作、他業種の方々との打ち合わせ、設計者との協議などを担当していました。また、材料の検査も行っていました。今考えると30歳そこらで、よくやったなと思います。元来、生意気なものですから、やれないことはないという気概で、錚々(そうそう)たる先生方と打ち合わせを重ねながら取り組んでいました。今と比べると、当時の現場の雰囲気はもっとゆったりとしていて、規則もそれほど厳しくなかったですね。

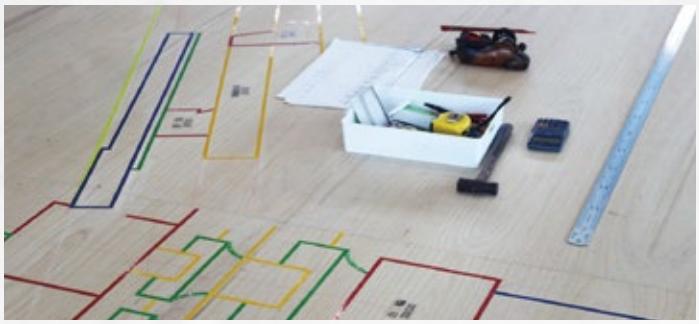
当時、私がこの仕事に就いて最初にやったことは、沖縄の大工を探すということで、知り合いもいなかったのでかなり難しかったです。それでも、10人近く集めることができました。それがちょっと大変だったなと思います。沖縄の職人達は熱意にあふれていて、彼らは方言を使わずに我々と一生懸命にコミュニケーションをとるようにしていたのが、とても印象に残っています。

原寸図制作（平成復元）

平成復元に携わった山本氏（一列目右から3番目）と職人たち

令和の復元に携わるプレッシャーなどはありますか？

平成の復元の時は、戦前の首里城を覚えている人もいましたが、それは小さい頃の遠い記憶でした。一方、令和の復元では、数年前まで実際にそこにあった建物の記憶が鮮明で、写真なども残っています。そのため、復元に対する期待やプレッシャーが高まっています。私たちは、前と同じだと感じてもらえるような建物（正殿）を作りたいと思っています。ただ、復元の際に新たな知見や防災対策が必要となるため、若干の違いはあるでしょう。



原寸図

「実際に作業を通じて経験を積むことが大切です」

使用される木材には調達から関わっているのですか？

主要な木材は国や県の方々が調達を行っており、私は調達された木材の選定検査を行い、ふさわしくないものは取り替えました。樹齢150年や200年の古い木材になると、欠点がないものは存在しないため、うまく活かすように考えています。正殿の部材としては適合しなかった木材も、他の建物に使える可能性があるため、このような視点で選定検査を行っていました。

木材加工の難しさを教えてください。

木材は含水率によって変化（伸び縮み）します。湿気の多い季節には、水分を吸い膨張し、逆に湿気の少ない季節には、水分を放出し収縮します。このことを「木材が動く」と言います。

木材は乾燥していくにつれて、少しずつ動き、加工中でも動いていきますので、どの時点で最終的な形に持っていくかが重要です。今回の職人達の熟練度は各々違いますが、大きな木材を使った経験がある人はそんなに多くはいません。私自身が現場で直接材料を加工することはないので、職人と会話をしながら、どういう風にやるとどうなるかということを話し合います。私があまり指示を出してしまうと、職人が成長しないので、彼ら自身で様々なことを感じ取りながら、実際に作業を通じて経験を積むことが大切です。

正殿の完成まであと3年ですが、現在の状況について教えてください。

できるだけ30年前の平成の復元と同じ工期で建て方を開始することを目標に、皆で頑張っています。ただ、現状はかなり難しいです。当時は週休1日で土曜日も働いていましたが、現在は週休2日が一般的です。そのため、作業できる日数が減っています。また、平成の復元の時は首里城公園オープン前で、作業できるスペースが広かったのですが、令和の復元では「見せる復興」を掲げて見学デッキを設け、来園者にできるだけ近くで復元工事の現場を見てもらえるよう公開しています。そのため、作業現場の範囲が制約され、少し難しい状況です。現在、10数人で工事作業を行っていますが、最大で30人ほどの人材を活用して、チームワークを大切にして引っ張っていきたいと考えています。

現在、原寸場では手描きの「令和の首里城正殿」原寸図を公開していますが、設計図を見ながら描いているのですか？

原寸図は、設計図をもとに描きましたが、焼失前の写真も参考にしました。設計図と写真の食い違いがあった場合は修正しています。伝統建築の棟梁は、図面を頭の中で3次元に起こして平面に描かなければならないので、それができないことには仕事になりません。決まり事に基づいてプロセスを進めますが、これまで様々な復元に携わってきた経験があるため、古写真を参考にしながら図面を描いています。そして、「起こし絵」を作成し、設計者や有識者の先生方に意見を伺いながら、微修正を加えて最終的な建物の形を決定します。

軒起こし絵

正殿に使用される木材

「仕事に対するアプローチや　職人との対話を通じて、
ノウハウを伝えていきたいと考えています」

技術の継承や人材育成のために大切にしていることを教えてください。

私自身が道具を使って作業を教えることはありませんが、職人との対話を通じて、仕事に対するアプローチやノウハウを伝えていきたいと考えています。そして、一番大事な「到達点」を示してあげることを心がけています。ここまで行かなければいけないという目標を示し、彼らは自分たちのやり方で進んでいけばいいと思っています。

例えば、木造建築では木材同士を組み合わせる際に、バランスや傾斜を非常に慎重に見極めなければいけません。専門用語では「滑り勾配を効かせる」とも言いますが、真っ直ぐではなく、少し勾配をつけていくことですが、これには経験値がものを言います。職人たちが「到達点」をイメージしやすいように話しながら進めています。

また、木材には個体差があります。地域や山の向きによっても性質が変わります。今回の「令和の首里城」では様々な地域から木材を調達していますが、産地によって木のバランスが変わるため注意が必要ですし、同じ産地でも、山の向きや平地か斜面か、急勾配かどうかで性質が変わります。また、木の育て方でも違いが出てきます。

このような考え方は、普段から行っているものですが、それを続けることで、非常に良い経験値になると思います。

「今後の沖縄の伝統建築を担う人材が育つことを願っています」

首里城の復元に携わる思いや願いについてお伺いできればと思います。

繰り返しになりますが、まず一つ目は、沖縄の方々が心に描いている「平成の首里城」と同じようなものを残したい・作りたいということです。二つ目は今回、正殿復元工事の担当に選ばれ、ここに参加する職人を集めましたが、主に30代、40代で、これから未来に向かって活躍できる人たちに経験させて、今後のプロジェクトも見据えて工事を完成させたいという気持ちがあります。

さらに、今回は数人の沖縄の若手大工たちが参加していますが、沖縄の大工は、30年前に比べて減っているように感じます。そこで、令和の首里城復元に関わる4年間で、様々な経験を積んでいただき、今後の沖縄の伝統建築を担う人材が育つことを願っています。そのような人材がこの先の未来・復興に繋がっていくことを期待しています。

興南アクト部メンバー

＼次世代が受け継ぐ令和の首里城／

興南アクト部の視点

興南アクト部とは

興南アクト部は、那覇市にある学校法人興南学園の中学校・高等学校の部活動です。2010年に設立後、全国から沖縄を訪れる修学旅行生向けに「首里城ガイド」をはじめ、様々な交流会を実施しています。首里城の焼失やコロナにも負けず、今年も多くの修学旅行生に首里城の魅力を伝え続けています！

ガイド風景①

ガイド風景②

ガイド風景③

興南アクト部がオススメしたい 首里城スポット

第1位 東（あがり）のアザナ・西（いり）のアザナ

撮影は興南写真部!!

修学旅行生に大人気の“映え”スポット。沖縄の「東」と「西」の読み方クイズとともに興南アクト部がガイドします。沖縄の海に沈んでいく夕陽、その優しい光に照らされた首里城は、言葉にできない絶景です！

西のアザナ

第2位 龍樋（りゅうひ）ソフト

見た目もかわいい興南アクト部一押しの首里城スイーツ。「カフェ龍樋」（首里杜館1階）で購入できます。ソフトクリーム×ちんすこう×黒蜜がコラボした首里城に来たら一度は食べたい絶品スイーツです！

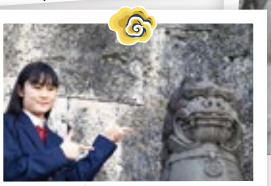
第3位 首里城公園のシーサーたち

興南アクト部員の一番人気はとってもかわいい奉神門前のミニシーサー。首里城公園内にあるシーサーは一体一体デザインが違うので、皆さんの“推（お）シーサー”を見つけてみてはいかがですか？

龍樋ソフト

みんなで食べるとさらに美味しい!

奉神門前シーサー



瑞泉門前シーサー

歓会門前シーサー

第4位 床面プロジェクションマッピング

首里杜館B1のガイダンスホールでは、首里城にまつわるモチーフを使ったデジタルアートが楽しめます。床に一歩足を踏み入れると…、鮮やかな光とともに“あの”動物が現れます！伝統とテクノロジーの融合をぜひご体感あれ！

床面プロジェクションマッピング

足元にデジタルアート♪

（寄稿）学校法人興南学園 興南高等学校・興南中学校 社会科教諭　興南アクト部 顧問　門林 良和 氏

写真でつむぐ
復興への想い

＼次世代に受け継いでゆく首里城の記録／

沖縄の学生×首里城 写真でつむぐ復興への想い

2023年夏には、いよいよ正殿本体の復元工事が始まる首里城公園。沖縄の学生がカメラで捉えた復興の姿を首里城公園のホームページと復元現場付近にて紹介しています。写真プロジェクトを企画した内閣府沖縄総合事務局の担当者にお話を伺いました。

沖縄の学生に復興写真を撮ってもらおうと考えたきっかけを教えてください。

「見せる復興」ということで、国としても様々な写真を撮影し公表していますが、どうしても記録写真の域を超えないところがあります。また、現場の様子をとらえた写真は多くありますが、そこで働く「人」にフォーカスした写真はこれまでほとんどありませんでした。たくさんの方が復元・復興に向けて携わっているので、その彼らの姿を伝えたいと思い写真プロジェクトを考案しました。プロの写真家に撮影いただくのも良いのですが、学生時代だからこそ持っている彼らの感性で、地元・沖縄の首里城復興について捉えてほしいと思いましたし、このプロジェクトをきっかけに、多くの若い世代に首里城に想いを寄せてもらえたらと考えています。

学生たちの取り組む姿を見てどのような思いがありますか？

生徒の中には、火災後の首里城を知らない方も、そもそも初めて首里城に来たという方もいました。それでも復元工事の説明を聞いて熱心に現場を撮影する様子を見て、改めて首里城について考えてもらえる機会になったのではないかと思いました。

宜野湾高校　生徒さんコメント

様々な人が、首里城の復興を願い、一生懸命作業している姿がとても素晴らしいと思いました。そして、その瞬間を写真として切り取ることができて、素晴らしい体験ができたと思います。

沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所
首里出張所　調整係長 **上原 花 氏**

復元工事に携わる中で担当者として大事にしていることはどのような事ですか？

「見せる復興」というキーワードを掲げていますが、一方的に見せているだけでなく、それをきちんと受け取ってもらえることが大事だと考えています。専門的で難しい用語などをいかに分かりやすく適切に伝えるかを考え、受け取り手に立った目線で「見せる復興」に取り組んでいきたいと考えています。

来園者へのメッセージをお願いいたします。

首里城の復元復興を見ることができるのは、「いま」だけです。作られていく建物もダイナミックで見映えがありますが、そこに携わっているたくさんの「ひと」にもご注目いただきたいです。工事現場のひと、券売所のひと、園内で掃除をしているひと、警備をしているひと……そしてあなた。

多くの人がいることで存在し、復興のあゆみを進めていく首里城の姿を、これからもぜひ見つめてください。

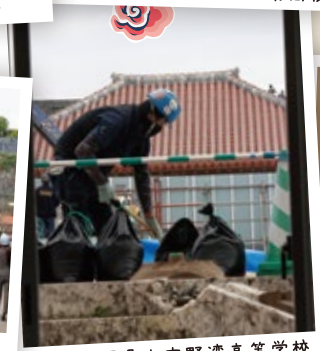
撮影：沖縄県立浦添工業高等学校

撮影：沖縄県立浦添工業高校

撮影：沖縄県立真和志高等学校

撮影：沖縄県立真和志高等学校

撮影：沖縄県立宜野湾高等学校



撮影：沖縄県立宜野湾高等学校

撮影：沖縄県立美来工科高等学校

撮影：沖縄県立美来工科高等学校

首里城散策の拠点「首里杜館（すいむいかん）」のビジターロビーが、新たにガイダンスホールとして生まれ変わりました！

首里杜館B1の「ガイダンスホール」は首里城散策の拠点として、2023年春にリニューアルされ、首里城復興の今を知る「見せる復興」や沖縄の歴史文化、首里城と周辺史跡や街歩きが何倍も楽しめるよう、アナログとデジタルを融合した仕掛けが随所にみられます。

驚きと発見に溢れるガイダンスホールの魅力について、ご紹介いたします♪

首里のまちなみ模型と空中ディスプレイ

＜立体模型＞首里まちなみ模型

まず始めに、300年前に描かれた「首里古地図」を元に製作された、大型の『首里まちなみ模型』にご注目ください。この立体模型はとても見ごたえがありますが、実は、当時の御殿（うどうん）や寺などが、古地図から忠実に再現された逸品。現在の首里城下の街並みが当時からあまり変わっていないことにも驚きます。

＜仕掛けその①＞ 空中ディスプレイ

首里まちなみ模型に近づくと3Dホログラムの「空中ディスプレイ」が見えてきます。アクセスしたい情報に指で触れると、史跡や歴史文化が大型モニターに映し出され音声と共に楽しめる仕組みです。また、首里まちなみ模型と連動して建物の位置を知ることもできます。

ガイダンスホールの奥でホログラムのディスプレイを見つけたら、じっくり向き合って古都首里を堪能してはいかがでしょうか。

＜仕掛けその②＞光と音の映像ショー

色鮮やかな首里城のデザインと戯れる楽しみが新たに加わりました。床面プロジェクションマッピングと壁面モニターを連動させた光と音の映像ショーは、子供たちにも人気！ 遊び方のコツは、めでたい時に現れる五色の雲“瑞雲（ずいうん）”を追いかけずに“立ち止まって待つ”こと。瑞雲が足元に集まり、光の中から様々な首里城デザインが出現します。3Dホログラムの龍も迫力満点。30分毎に出現する特別なプロジェクションマッピングも見逃せません。

龍や瑞雲などのデザインが首里城のどこに使われているのか壁面ディスプレイから探してみましょう。

床面プロジェクションマッピング

迫力ある龍の3Dホログラム映像

琉球王国について学べるパネル展示

大型モニターと3D看板

＊「首里古地図」とは
沖縄県立図書館所蔵

古地図には王族の御殿（うどうん）や殿内（どんち）、王府の役所や士族の屋敷、寺院など、昔の首里の町並みが詳細に残されており、かつて 琉球王国が歩んできた時代を写しだしています。

首里古地図「首里あるき」▶
首里城の周辺に点在する史跡や観光名所を紹介するポータルサイトです。

首里城公園HP　ON THE TRIP

首里城通信　御城だより Vol.17

［発行日］2023年5月1日　［編集・発行］一般財団法人 沖縄美ら島財団　https://oki-park.jp/shurijo/
表紙：「平成の復元」記録写真のグラフィック「見せる復興」見学デッキで展示中